

# 一粒耕心

## 地方向上を図り

## 高品質なねぎの栽培に取り組む

### 就農のきっかけ

管内でも生産者が多い能代市河川地区で夏、秋冬、雪中ねぎの栽培を手掛けている大塚さん。就農する前は、軌道工という鉄道の線路の保守・点検をする仕事をし

ていきましたが、妻・直子さんと出会った結婚。直子さんの実家で営んでいた農業に携わるようになりました。就農して3年目とまだ若い生産者ですが、後継者として日々試行錯誤をしながら農業に励んでいます。



能代市河川字後田  
大塚 渉さん

J A あきた白神の主力作物である「白神ねぎ」。今年度は過去最高の14億9,702万円（7日現在）を記録し、販売額15億円も目前に迫っています。日本海側の砂丘地帯と米代川流域の堆積大地を利用し栽培される「白神ねぎ」。その出荷量は県内最大を誇ります。

### 栽培へのこだわり

現在、大塚さんの圃場では雪中ねぎの収穫作業が行われています。秋に植え替えたねぎの掘り取りは、雪をかいてから収穫しなければなりません。手間の掛かる作業です。

栽培のこだわりについて何うと「病害虫防除、圃場巡回はもちろんのこと、堆肥をふんだんに使い地方向上を図っています」と教えてくれました。毎年春になると圃場に堆肥をまいており、栄養たっぷりの土壌で高品質なねぎを栽培しています。また、疑問があった場合も1人で解決しようとはせず、両親をはじめ近所の生産者に積極的に聞き、情報を収集しています。

### 今後に向けて

「まだまだ未熟なので、今の目の前にあることに対して真面目に、がむしゃらに取り組んでいきたい。

経営規模	
ネギ	1.2 ha
水稻	10 ha
大豆	10 ha



収穫作業を行う大塚さん

今後は面積を維持しつつ、高品質なねぎを栽培していきたい」と大塚さんは力強く話してくれました。また、農業に転身したことについては「就農する前の昼夜逆転の生活に比べると、日中太陽の光を浴びて作業する農業はとても楽しいよ」と笑顔で話してくれました。地域を担う若手生産者としての今後の活躍が期待されます。